

# 第10回 スプラッタームービー フェスティバル

遂に実現！魂をも狂わす絶叫の10大作連続上映！

<p>ひとり歩けば、きは危険です。</p> <p>10日(土) 11日(日)</p> <h2>ゾンビ</h2> <p>ZOMBIE DAWN OF THE DEAD ●監督 ジョージ・A・ロメロ ●1979年イタリア映画</p> <p>この怒み、晴らさずにおくのか。</p>	<p>宇宙悪魔の標的は女だ！</p> <p>10日(土) 11日(日)</p> <h2>悪魔の受胎</h2> <p>INSEMINOID ●監督 ノーマン・J・ウォーレン ●1980年 アメリカ映画</p> <p>心臓を直撃する凄まじい自動のこぎりの轟音！伝説の絶叫ホラーNo.1！</p>
<p>12日(月) 13日(火)</p> <h2>ザ・フォッグ</h2> <p>THE FOG ●監督・脚本・音楽 ジョン・カーペンター ●1980年アメリカ映画</p> <p>5分前は人間だった。●1981年アメリカ映画</p>	<p>★注意 この映画を観るに際しては、いかなる不快な症状を訴えられても責任は負いません。10作品全部一人で見ると、おやめ下さい。</p> <p>12日(月) 13日(火)</p> <h2>悪魔のいけにえ</h2> <p>THE TEXAS CHAINSAW MASSACRE ●監督 トビー・フーパー ●1978年 アメリカ映画</p>
<p>14日(水) 15日(木)</p> <h2>ハウリング</h2> <p>THE HOWLING ●監督 ジョー・ダンテ ●特殊メイク・ロブ・ボートン</p> <p>ラスト10分、あなたと一緒に悲鳴をあげている！</p>	<p>14日(水) 15日(木)</p> <h2>狼男アメリカン</h2> <p>特撮メイク・リック・ベイカー ●1982年アメリカ映画 AN AMERICAN WEREWOLF IN LONDON ●監督 ジョン・ランディス</p>
<p>16日(金) 17日(土)</p> <h2>シャドウ</h2> <p>SHADOW ●監督 デリオ・アルジェント ●1983年イタリア映画</p>	<p>16日(金) 17日(土)</p> <h2>悪魔のはらわた</h2> <p>FLESH FOR FRANKENSTEIN ●1973年伊・仏合作</p>
<p>18日(日) 19日(月)</p> <h2>地獄の謝肉祭</h2> <p>●1981年イタリア映画 CANNIBAL APOCALYPSE ●監督 アンソニー・M・ドーソン</p>	<p>全米で日本で異常震撼！残忍ホラーBEST 1！</p> <p>18日(日) 19日(月)</p> <h2>死霊のはらわた</h2> <p>EVIL DEAD ●監督・脚本 サム・ライム ●1985年アメリカ映画</p>

1ST SPLATTER MOVIE FESTIVAL





# 第1回S・M・F開催にあたって

スプラッター・ムービー・フェスティバル

総合プロデューサー

小松栄一郎



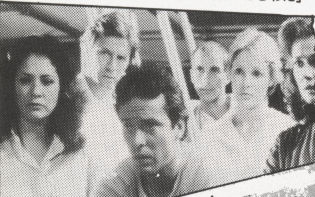
▲熱狂のバリ・ファンタスティック映画祭



▲メイクマニアも登場するバリファンタ



▲スティーン・キングも絶賛「死霊のはらわた」



▲「悪魔の受胎」大阪初公開



▲変身5分前「ハウリング」



▲未見の人も多いはず「悪魔のはらわた」



▲人肉を求めてさよう「地獄の謝肉祭」



▲ファン狂喜の「ゾンビ」

「Fantastic. 何と素敵な言葉だろう / 映画の楽しさを表現するのに確かにこれ以上の形容詞はない。芸術映画もB級映画もないのだ。僕等をスクリーンに釘づけにしワクワクさせてくれる映画は、全てがファンタスティック映画なのだ /」

と、フランスでアヴォリアッツとパリの2つのファンタスティック映画祭を発見した時、興奮しながら僕は思った。

毎冬のアルプス山頂で催されるアヴォリアッツ映画祭では、豪華でビッグな世界の映画人たちが、1人の映画ファンに戻って、冒険心を持っている若い新人監督を発見しては、彼等を世界で真っ先に評価していた。こうして誕生したのがスビルバーグであり、ジョージ・ミラーなのだ。

パリ映画祭の主役は観客である。彼等は過激にも映画にエンターテイメントだけを要求している。この映画祭で熱烈な支持を受けてデビューしたのが、「死霊のはらわた」のサム・ライミ監督だ。

この2つの映画祭の常連になってから、いつの日にか僕も日本でファンタスティック映画祭を開催したいと思うようになった。その夢が実現したのが、先日東京国際映画祭だった。初めての試みで大いに不安でもあった。しかし結果は、会場の渋谷パンテオンは連日の超満員で、やはり日本でもファンタスティック映画祭が、若い映画ファンの間で待ち望まれていたんだと、企画の責任者として僕は狂喜した。

第1回ファンタスティック映画祭の会期中、約2万人もの志を同じくする仲間に出会ったことで、今僕の夢はもっと大きくふくらんでいる。日本中に第2、第3の面白映画祭を誕生させたいと思っているのだ。

「来年までファンタスティック映画祭が待ちきれない。」との手紙をファンから数多く受けとったが、僕だって同じだ。そこでファンタスティック映画祭を熱烈に支持してくれた仲間への、夏休みのプレゼントとして企画したのが、今回の第1回スプラッター・ムービー・フェスティバルである。

名前はおどろおどろしいが、スプラッター・ムービーは、ファンタスティック映画の最高のジャンルのひとつであると思う。「死霊のはらわた」に代表されるように、若い映画監督が、金はなくても才気を示して、世界の映画界にこのジャンルの映画で続々とデビューしてきた。とにかく観客を驚かし楽しませてやろうとする志の高さ(?)が我々を狂喜させる。

夏休みファンタスティック映画祭

## 第1回 スプラッター・ムービー フェスティバル

8月10日土→19日金

《連続上映》

なんば花月東どなり (643) 4938

花月シネマ



▲毎年冬に開催されるアヴォリアッツ映画祭



▲アヴォリアッツにてJ・ミラー監督と筆者



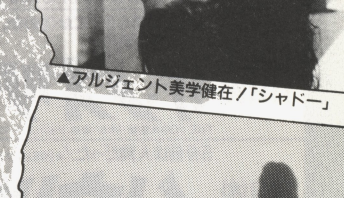
▲アカデミー賞に輝くリック・ベーカーの「狼男アメリカン」



▲お、お願いやメデ「パンゲリア」



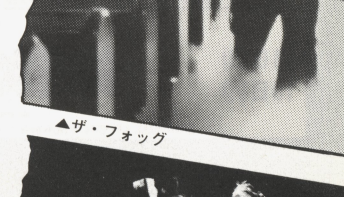
▲アルジェント美学健在「シャドー」



▲ザ・フォッグ



▲カーペンター様もう一度ホラーを「ザ・フォッグ」



▲お、おっと!これぞ伝説の「悪魔のいけにえ」

